

Sat.,Jun.10 2023 / ①12:30～ ②14:30～ ③16:30～18:00 / 1stage ¥3000, 1day ¥7500 (1stage ¥1000 for 25years old or younger)

ATSUMORI

Suffering from having killed the young Taira no Atsumori at the battle of Ichi-no-tani, Kumagai no Naozane has become a priest named Rensho. When he revisits the battlefield to pray for the repose of Atsumori’s soul, grass mowers appear with a fine tune of flute. One of them asks Rensho to repeat the prayer, and disappears. The mower turns out, in the second half of the play, to be the ghost of Atsumori, and describes the fate of Taira-clan and his last battle at Ichi-no-tani. He appreciates the prayer by Rensho, who is no longer the enemy.

SHIMIZU

The master orders Taro-kaja to go to the spring in the field known as the “Nonaka no Shimizu” and carry back a pail of water for a tea party. Hating such an errand, he makes up a story that he was attacked by a demon and ran away leaving the pail behind. The master does not want to lose his favorite pail, he goes to the spring to find it. Determined to scare the master off, Taro-kaja gets there before the master disguising himself as the demon. Being frightened, the master accepts the demon’s demand that the master should treat Taro-kaja better. The master, however, notices that the demon’s voice resembles Taro-kaja’s eventually.

KAKITSUBATA

A priest on the way to the east stops at Yatsunashi in the Mikawa province where irises or *kakitsubata* are in full bloom. Quoting the *Tales of Ise*, a woman there explains a poem by Ariwara no Narihira. He used five syllables of ka-ki-tsu-ba-ta at the beginning of each line in the poem. She then offers the priest a night-lodging and later appears in a gorgeous robe which Narihira mentioned in the poem and is a memento of one of his lovers. She reveals herself as a spirit of irises immortalized by Narihira’s poem and dances in gratitude of resting in peace.

AOI NO UE

Lady Aoi, Prince Genji’s wife and symbolized by a folded robe placed on the stage, is seriously ill. Through the prayer of Teruhi, a shaman using a bow of Japanese cherry birch, which is supposed to bring the cause of trouble out, the evil spirit of Lady Rokujo, a lover of Prince Genji, appears. Expressing her fierce hatred of losing Genji’s affection and rage towards the humiliating struggle at the festival, she beats the patient cruelly and disappears. Yokawa, a holly priest, is summoned to rescue. While giving his prayers, the spirit of Lady Rokujo in a demoness figure reappears and chases him furiously until being calmed down by his holy power of sutra.

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

<主催>

公益社団法人 金春円満井会

komparu-emmaikai

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス

<https://www.komparu-enmaikai.com/>

敦盛 (あつもり)

くまがいのじろうなおさね

熊谷次郎直実は源平の合戦の折にまだ少年であった平敦盛を手にかけてたことを機に出家し、いまは蓮生法師（ワキ）と名乗っている。

法師が敦盛の菩提を弔うため一の谷を訪れると、草刈男（前シテ・ツレ）たちが笛を吹きながら現れる。男たちは樵歌牧笛の故事などを語り立ち去るが、ひとりだけ残り法師に十念を請う。法師が名を訪ねると「あなたが明け暮れに回向している相手こそ、私なのですよ」と告げ姿を消す。

所の者（アイ）に話を聞いた法師が夜すがら念仏していると、平敦盛（後シテ）が在りし日の姿で現れる。弔いを感謝し、平家の短い栄華や、都を落ち須磨へ逃げ延びる様子を語る。また、合戦前夜に父である経盛が人を集め今様を歌い管弦の宴を催した時の敦盛の笛の音は、源氏方にいた直実（蓮生法師）まで届いたのであった。その様子を思い出しながら敦盛は舞を舞う。その翌日に舟に乗り遅れついには直実に首を取られた様子を再現して見せながら、しかし今は「敵にてはなかりけり」と言いなお回向を頼みつつ消え失せるのであった。

修羅物の中でも、シテが少年であること、ワキとは直接の敵でありながら最後には仏の教えをもって恩讐を超えた関係となることなど、とても清々しい曲です。（布由樹）

杜若 (かきつばた)

舞台は三河国八橋（現在の愛知県知立市八橋町）。旅の僧（ワキ）が今を盛りと沢辺に咲く杜若に見とれていると、一人の女（シテ）が現れ、ここは伊勢物語にも記された杜若の名所・八橋の里と教える。続けて、在原業平が『かきつばた』の五文字を句の上に置き、「からころもきつつなれにしつましあれば はるばるきぬる たびをしぞ思ふ」と恋慕を詠んだ和歌を紹介し、杜若は業平の形見の花と昔を偲ぶ。日も暮れ、一夜の宿を貸そうと女は僧を自らの庵へと案内する。

僧が休んでいると、女は美しい唐衣を着、透額（前額部の髪の生え際が透いて見える模様の入ったもの）の冠を戴いた姿で現れる。杜若の歌は、高子の后への想いを唐衣に託して詠んだもの。この唐衣こそ高子の後の品、冠は業平のもの。そして、自分は歌に詠まれた杜若の花の精と素性を明かす。杜若の精は業平の歌を讃え、舞を舞いはじめる。業平は歌舞の菩薩の化身。迷える人々を救うべく、仮にこの世に現れた。その歌は非情の草木をも救いに導く力がある。伊勢物語に記された業平の歌を引きながら、歌の功德で草木の身ながら成仏が叶ったことを明かし、夜明けと共に消えていった。（柏崎）

葵上 (あおいのうえ)

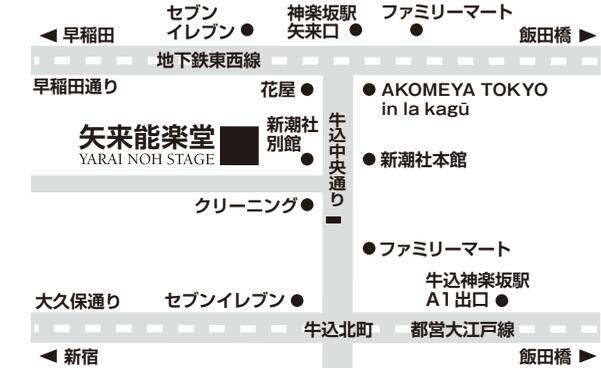
舞台の正面前方の床に小袖が置かれる。小袖は左大臣邸で物の気に取り憑かれて重い病に伏せている葵上である。廷臣も集い、左大臣の息女にして光源氏の正室である葵上の容態を憂慮している。照日の神子が梓弓を鳴らして物の怪を誘い出すと、破れ車に乗って高貴な女性があらわれる。貴女はさめざめと泣いている。誰にともなく優雅に、怒りを滲ませながら、この世を憂い、昔を懐かしみ、愛の衰えを嘆き、近づいてくる。そして自ら「これは六条御息所の怨霊なり」と正体をあかす。光源氏への愛執に懊悩し、車争いで葵上に受けた恥辱が蘇った御息所は、怒りが炸裂して病床の葵上に襲いかかり、形相を変じて破れ車に乗りこむ（後見座で物着）。

物の気の正体が判明して、霊験に優れた横川の小聖が呼ばれる。悪鬼となった御息所は小聖の加持祈祷を凌駕しにかかるが、法華経読誦に心を和らげ成仏の身となった。

六条御息所は亡き東宮と子をなした妃である。女性の最上位を約束された身として、他人のために軽んじられたり動揺する自分が許せない。自らを眺め、自らを知り、自らを破って、御息所は東の間、成仏を得る。（森）

<TYoshikawa/STakahashi>

矢来能楽堂地図



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩 5分

駐車場がございません。
近隣のコイン駐車場をご利用ください。



円満井会定例能

えんまいかい

令和五年六月十日(土)

第一部 十二時半開演 (十二時開場)
第二部 十四時半開演 (十四時二十分開場)
第三部 十六時半開演 (十六時二十分開場)

全自由席

於矢

〒162-0805

来能

楽

堂

東京都新宿区矢来町六〇
電話 〇三―三二六八―七三二一

番組組

第一部

開場 十二時 開演 十二時半

弓八幡 村岡 聖美 深津 洋子
梅井みつ子
後見 富士太鼓 安達 裕香 地謡 岩松 由実
中野由佳子

ツレ／草刈男 岩間啓一郎
ツレ／草刈男 大塚龍一郎
後シテ／平敦盛 本田布由樹
前シテ／草刈男

能 敦盛
ワキ／蓮生法師 野口 能弘 大鼓 柿原 孝則
小鼓 鷺澤洋太郎 笛 小野寺竜一
アイ／所の者 河野 佑紀

後見 本田 光洋 金春 飛翔 金春 憲和
本田 芳樹 地謡 中村 昌弘 辻井 八郎
荻野 将盛 井上 貴覚

〈終演予定 十四時五分〉

第二部

開場 十四時二十分 開演 十四時三十分

仕舞 安宅 山井 綱雄 中村 昌弘
高橋 忍
鶺鴒ノ段 井上 貴覚 地謡 本田 芳樹
金春 飛翔

シテ／杜若の精 柏崎真由子

能 杜若
ワキ／旅僧 村瀬 提 大鼓 原岡 一之 太鼓 林 雄一郎
小鼓 岡本はる奈 笛 槻宅 聡

後見 金春 安明 中野由佳子 安達 裕香
横山 紳一 地謡 深津 洋子 林 美佐
芝崎眞貴子 村岡 聖美

〈終演予定 十六時〉

第三部

開場 十六時二十分 開演 十六時三十分

狂言 清水
シテ／太郎冠者 野村万之丞 アド／主 石井 康太
後見 河野 佑紀

ツレ／照目の神子 岩松 由実

能 葵上
ワキ／横川の小型 宝生 常三 大鼓 高野 彰 太鼓 桜井 均
小鼓 鳥山 直也 笛 藤田 貴寛

アイ／下人 野村眞之介

後見 高橋 忍 大澤久美子 村岡 聖美
山井 綱雄 地謡 安達 裕香 梅井みつ子
本屋 禎子 中野由佳子

附祝言

〈終演予定 十八時〉

コロナウイルス感染対策に、ご協力をお願い申し上げます。

円満井会定例能公演予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

令和五年度
公演

令和五年 十月二十八日(土) 小鍛冶 中野由佳子 籠太鼓 本田 芳樹 融 林 美佐
令和六年 一月二十七日(土) 箴 村岡 聖美 羽衣勢型 金春 憲和 鉢木 井上 貴覚

入場料 各部 一般三、〇〇〇円(一括購入に限り全三部七、五〇〇円)
各部 25歳以下優待券一、〇〇〇円(全三部三、〇〇〇円)

金春円満井会特別公演

◆令和六年三月二日(土) 午後一時開演 国立能楽堂
能「鶏立田」 本田 芳樹 能「道成寺」 柏崎 真由子

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。